(４)陽性検査の予測値、陰性検査の予測値を計算せよ。

　　　　陽性予測値＝100／(100＋50)×100＝66.7　　　 よって66.7%

　　　　陰性予測率＝350／(300＋350)×100＝53.8　　　よって53.8%

(５)偽陽性率、偽陰性率を計算せよ。

 偽陽性率＝１－特異度＝50／(50＋350)×100＝12.5　　よって12.5%

　　　　偽陰性率＝１－感度＝300／(100＋300)×100＝75　　　よって75%

問４、選択問題がいくつか出ます。

(１)病学的調査で因果関係を検討するとき、用量・反応関係を調べることがある。次のうちそれをあらわしているのはどれか。(P69.5-5より)

　１、タバコの喫煙量が多いグループになるに従って、肺がんの罹患率も高くなる。

　２、原爆投下の爆心地から遠ざかるに従って、白血病死亡率が低いことが分かった。

３、ほぼ同じ期間を類似の職場で働いたのに、膵がん罹患率は高齢者群ほど高く見られた。

４、スモンで死亡したケースの、生存中のキノフォルム服薬量を調べたところ、その分布は、服薬量が増すに従ってケースも多くなっていた。

５、焼き魚をよく食べたグループのほうが、そうでないグループより胃がんの罹患率は高かった。

答、1と２

　　用量・反応関係は上昇していくことが重要であり、3群以上ないと比較できない。

　　あくまで“率”が大切。

用量・反応関係とはもし予想している原因Xが量的に変化するもので、すなわち、連続型変数や順序尺度である場合、要因Xが増加するにつれて、疾病Yの頻度が増加することである。

後は何問か出るかな…。